

事業実施主体名: 佐渡地区農山漁村体験推進協議会

令和 6年 10月 24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 佐渡市	令和元	農泊推進対策	人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

民泊のみならず、民宿等宿泊施設も含めた農泊地域としての地域づくりに取組むこととしているが、教育旅行での民泊体験については、学校のニーズ変化、アレルギーや子ども達の体調への対応の困難さ、事務局の人員削減等のため令和6年度で受入れを終了することが決定している。「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を機にインバウンドも含めた旅行客の増加が予想されていることから、今後が期待される。

2. 低調と評価された要因

通常の受入れ体制による教育旅行の民泊体験として7校 152 名を受入れることができたが、その他の体験も含めた宿泊者数及び売上高とも目標に達していないため、当年度に関しては、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①ターゲットの絞り込み

教育旅行での民泊体験の終了は、子供たちのアレルギーに対応した食事や、健康面の管理の負担増を勘案すれば理解ができる。これらの問題に対応が可能な民宿や宿泊施設の確保に注力されたい。

「佐渡島の金山」の世界遺産登録は地域社会のビッグニュース。令和5年はゼロ人にとどまったインバウンドの伸長が期待できる。これを機に、個人旅行者をメインターゲットにしてはどうか。

なお、取組に当たっては、地域性なども考慮し、交通手段等が記載されたパンフレット作成やO T Aへの案内をしてはどうか。

②県内外の高等学校への企画提案

学校教育団体の受入れの終了が予定されている事は記載のとおりであるが、県内外の高等学校への企画など提案してはどうか。

③佐渡地域世界農業遺産推進協議会との連携

地域活性化対策に取り組んでいる「佐渡地域世界農業遺産推進協議会」においては、首都圏等で「トキと共生する佐渡の里山」の価値の再認識に向けた交流に取り組み、佐渡の魅力を発信していることから、農泊の取組としても連携できるのではないかな。

4. 改善状況

①ターゲットの絞り込み

教育旅行での農村ホームステイが事業終了となり、新たな「佐渡農泊・グリーンツーリズム部会」として活動をスタートした。すでに農家民宿や民泊で受け入れている方々や体験事業者の協力を得て、個人観光客の取り込みに力を入れていく。

広報ツールとして、佐渡観光交流機構が運営する「さど観光ナビ」のコラムコーナーを活用し、農泊のイメージづくりを行っていく予定。また自社O T Aである「サドベンチャー」の中のプランとして販売を行っていく。

②県内外の高等学校への企画提案

現在、佐渡島内には教育旅行を100人以上を受け入れできる施設がないため、30～50人規模の研究会合宿等のお問い合わせなら対応している。体験メニューや行程表作成補助を行うなど、旅行会社と連携して案内を進めている。

③佐渡地域世界農業遺産推進協議会との連携

「佐渡地域世界農業遺産推進協議会」や「佐渡棚田協議会」とは、世界農業遺産認定時より連携を行っており、佐度地区農山漁村体験推進協議会の活動に協力いただいたメンバーもいることから、今後機会があれば協力して取り組んでいきたい。

事業実施主体名: 山田地域都市農村交流協議会

令和 6年 12月 14日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 富山市	令和元	農泊推進事業	人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

地域の温泉旅館「ふれあいの里 ささみね」とコテージ「木 MAMA」はスキー客の減少にコロナ禍が追い打ちをかけ閉館となり、宿泊施設がない状況となっていたが、新たに古民家を改修した宿泊施設「雪つばき」などで宿泊者の受入れを始めている。また、富山大学の学生や障害者とその親たち、特別支援学校の教師の参加を中心として収穫体験を行ったほか、新たに協議会メンバーに加わった地域おこし協力隊が年間を通じた具体的な農業体験の計画を企画するなど新たな取組が行われている。

2. 低調と評価された要因

売上高及び宿泊数とも目標に届いていないことから、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①直売所来場者の強みを活かす

直売所来場者は強みであることから、来場者属性の分析を丁寧に行い、飲食店やイベント、体験プログラムへと繋げられるのではないかと考える。

②人脈を活かした活動の拡大

地域おこし協力隊員が“実働部隊”としてスタッフに加わったのは心強い。X（旧ツイッター）などを拝見すると、農産物の収穫体験や郷土料理の講習会など、規模は大きくないものの人脈を広げて多彩な活動を行っていることから、人脈を活かした活動の拡大を行ってはどうか。

③行政や観光団体の協力による「山田」のブランド力の強化

山田地区は富山市近郊の中山間地で、ジャガイモや大根などに加え、啓翁桜やエゴマなど特色のある農産品も多いのが強み。素材力は十分なのだが、残念なのはそもそも「山田」の知名度が低い点だ。実施体制や地域社会だけでは限界があるので、行政や観光団体の協力を仰ぐとともに、「山田」の名前を冠した農特産品やインパクトのある地域ブランドの開発に取り組んでみてはどうか。

④イベント、飲食、体験のパッケージ化

関東からの公共交通機関のアクセスが良いことから個人、団体を問わず今後利用者が増えてくるのではないかと考えられる。コロナ感染症対策期間以降、価格が高騰し、宿泊費が大きく値上がりしているが、旅行需要は増えている。地域イベントとの共催や体験プログラム、食事内容など旅行業者などと連携し、パッケージ化した素材提供をしてみてはどうか。

4. 改善状況

①直売所来場者の強みを活かす

直売所にて、農泊体験等の募集を今まで行っていなかった。スイカコンテストなど、既存のイベントの募集は行っているが、今期は、収穫体験等の募集を直売所にて、行う予定である。

②人脈を活かした活動の拡大

今期も地域おこし協力隊のネットワークから農泊に参加されている方たちがおられるので、今後も継続して行いネットワークの拡大を目指す。

③行政や観光団体の協力による「山田」のブランド力の強化

山田の名前を冠した農特産物は、既に山田高原大根、山田高原馬鈴薯、山田高原マコモダケの3種類ある。県と連携し、これらの知名度を上げるよう務める。

④イベント、飲食、体験のパッケージ化

以前は柿酢いりのソースが評判となり人気があったが、現在は製造されていない状況である。アイデアはあっても、それをどのように継続して販売していくかが、課題であり、粘り強く検討する。

事業実施主体名：矢田町スローツーリズム推進協議会

令和 6年 10月 29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
石川県 七尾市	令和3	農泊推進事業、人材活用事業	市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

蚤の市を始めとしたイベントを開催し地域の合意形成及び地域活性に貢献している。
また、営業活動を通じて様々な関わりが生まれ、金沢星稜大学との意見交換や熊本の復興支援ボランティアとの連携など予定していなかった取組も行われている。
さらに、生活の一環として行える体験プランが好調で、冬季に提供可能な体験プランの強化等も行われている。

2. 低調と評価された要因

売上・宿泊数の面では、5～7月は順調だったものの、当初見込んでいた夏休み需要とファミリー需要が不振に終わったほか、能登半島地震の影響で施設の一部が破損し、安全のため1月からの3か月間営業を見合わせたこと等のため目標は未達となっていることから、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①夏休み/ファミリー層のニーズとの乖離した原因分析

過去に行われたモニターツアーやワークショップでの反応が、どのように反映されているのか、一方でそれらが、夏休み/ファミリー層のニーズとの乖離した原因について精査する必要があるのではないか。

②大学関係者との連携強化

1月の能登半島地震で営業停止になったのは残念だが、一方で、金沢星稜大学生らに「たたみ」文化について学んでもらったのは良い交流機会。これをきっかけに、学生に農泊やしょうゆ、豆腐、味噌づくり体験などに積極的に参加してもらう仕掛けづくりはできないか。中山間地域の活性化や食文化の継承など、地域を活性化するための具体的な提案について研究のテーマにしているゼミは少なくない。大学関係者との人脈づくりを行ってはどうか。

③近隣の温泉旅館・ホテルと明確に差別化するための滞在型プログラムの開発

震災による実績の落ち込みは、時間の経過と復興度合いにより回復するのではないかと考えるが、個人・家族が動く長期休暇期間においての不振については、近隣の有名温泉地があることから不利な材料が揃っていると思われる。温泉旅館・ホテルとの差別化が明確な滞在型プログラムを再度検討・開発してみてはどうか。

4. 改善状況

①夏休み/ファミリー層のニーズとの乖離した原因分析

アスレチックなどの付帯設備をもつ当施設がファミリー層のニーズと必ずしも一致していないわけではないものの、「茅葺の古民家」という当施設の特徴は直接的にファミリーに訴えかけるものではない（活動的な一面より歴史的・ノスタルジックな一面がより強調されやすい）ため、広報の時点でファミリー層を取りこぼしている可能性がある。改善策としては旅行予約サイト上の文言のPR工夫やホームページでのPRに加え、石川県農林水産部の情報サイトからの取材を受け入れ特集ページを執筆してもらうなど極力費用負担のない広報強化を図った。

②大学関係者との連携強化

残念ながら本年度中は復旧・補修作業に忙殺されていたこともあり協議会側からの積極的な働きかけを行うことはできなかったが、来年度以降は受け入れ態勢も整うため引き続き関係性作りを行っていく。一方、紅白歌合戦出場歴もあるソロシンガーの岩瀬敬吾さん（19/ジューク解散後ソロ）、京都を拠点に全国で活動する同じくソロシンガーのKEEW0さんを招いたライブツアーを当施設に招致することに成功。近隣の飲食店との協業を含めた地域振興への貢献だけでなく、当施設の認知向上にも寄与する結果となった。

③近隣の温泉旅館・ホテルと明確に差別化するための滞在型プログラムの開発

温泉や懐石料理を提供する和倉温泉などによくみられる宿泊サービスは、茅葺屋根の古民家に宿泊し、五右衛門風呂を自ら沸かして入る当施設のサービスとは原則的に競合しないものという認識。ターゲットとする層も、前者は行き届いたサービスやリラクゼーション体験を求めるシニア層が中心であるのに対し、当施設のターゲットは子供に農泊体験や自然体験をさせたいアクティブファミリー層である。しかし、和倉温泉系の宿泊サービスと当施設のサービスがターゲットに混同されており、アクティブファミリー層が和倉温泉などに流れてしまっているとするればそれは問題であると捉えている。

そのような前提に立った場合、問題は提供サービスよりも広報やブランディングである。直近の対策としては、現状のbooking.comに加えairbnbの利用を検討している。このサービスは20~30代の比較的若いユーザーを持っているため、前述のターゲット層を捉えられる可能性が高くなるとと思われる。

事業実施主体名： 崎山半島渚泊推進協議会

令和 6年 10月 22日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
石川県 七尾市	令和3	農泊推進事業	

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

インバウンド向けに提供する体験プログラム、食事、宿泊施設については、モニターツアー等によって点検、磨き上げを行い、概ね受入れ体制が構築されている。特に和船の乗船、定置網体験等の特徴を持った取組を行っていたところであるが、能登半島地震によって当地域の住居やインフラ、体験施設、宿泊施設にも大きな被害を受けている。

2. 低調と評価された要因

復興ツアーの要望もあることから今後は復興と並行した渚泊に取り組むこととしているが、売上高及び宿泊者数とも実績に結びついていないため、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①県内大学、留学生に奨学金を出している企業等との連携

大学の留学生との事業連携は発信力の面から効果が高いと考えられ、県内大学や留学生向けに奨学金を出している企業等と連携し、当該ツアーを PR してみてはどうか。

②渚泊の特徴を踏まえた事業推進

能登半島地震で足元の生活基盤が脅かされている中、被災を前向きにとらえて復興ツアーなどの受入れに積極的に取り組む姿勢が見られ心強い。農泊の中でも「渚泊」に取り組む地域は北陸管内では多くなく、また定置網船乗船やろ漕ぎなどの体験ツアーも特徴的であるため、粘り強く事業を進めてもらいたい。

③インバウンド受入計画の見直し

震災による地域や各施設への被害による事業の低下は避けられない事ではあるが、低調な理由は他にもあると考えられる。問題を整理し、インバウンド受入れ計画を見直してはどうか。

4. 改善状況

①県内大学、留学生に奨学金を出している企業等との連携

県内大学は現在調整中であるが、県内の小学校、中学校と連携し体験を行っている。今後は体験をふまえたPRにも力を入れ、幅広い層の獲得へ向けて動いていく。

②渚泊の特徴を踏まえた事業推進

全農の復興ツアーとも積極的にタイアップし、特徴ある体験を売りにして今後も事業を継続していく予定である。

③インバウンド受入計画の見直し

受け入れ態勢、ニーズの把握など現在協議などを行い、見直している。だが結果が出るまでには時間を要するため、平行して国内向けの体験ツアーの増強なども行っている。

事業実施主体名：秋葉区まちづくり協議会

令和 6年 11月 6日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 新潟市	令和4	農泊推進事業、人材活用事業	市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

昨年度課題であった事業所・団体ごとの温度差については、地域の拠点施設に位置づけられる宿泊施設が完成したこと、開業までの過程で開催したワークショップなどを通じて地域住民との距離が縮まり、事業の周知が図られ、開業前からファンの獲得にもつながったこと等から、飲食については目標を大きく上回った。
また、今後はコンセプトの改良や宿泊に繋がる体験コンテンツ数の増加等の取組を強化することとしている。

2. 低調と評価された要因

工期の遅れにより宿泊施設の開業が予定より4カ月遅れたこと等のため、宿泊者数については目標を下回っており、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①応援者からの展開

メディアでの露出が多いので時間をかけて浸透することが期待される。また、民間のクラウドファンディングでは200名を超す支援者があり、応援者が多いと考えられるので、応援者が何に期待し、魅力としているかを分析し集客に繋げてみてはどうか。

②地域内の取り組み姿勢の維持

農泊施設の完成が4カ月遅れたとはいえ、宿泊や飲食の売上高は堅調に伸びており、今後に期待ができる。施設「泊まれる劇場 スロウプハウス」や、農泊推進事業「泥ダンス」などのネーミングも面白い。地域内の取り組み姿勢もよい方向に向かっている。

③ファン獲得に向けたリピーター対策

開業前からファンの獲得が来ている。飲食事業の実績が目標を上回っていることから、その分析を行い、リピーターに繋げる対策が必要。当初取り込む予定であった夏休みメインの顧客についても同様の対応を行うことによってファン獲得に繋がるのではないかな。

4. 改善状況

①応援者からの展開

開業後もメディアに多数取り上げていただき、地域内の観光パンフレットでも優先的に紹介していただいている。結果的にそれが地域内での認知が広がるきっかけにもなり、現時点で地域内外から多くのお客様にご利用いただけている。クラウドファンディングにてご支援いただいた方々は、「8：2」の割合で「地域内：地域外」となっていた。そのため宿泊施設として地域外のお客様に発信していくのは当然ながら、地域内のお客様を決して軽んじることなく、変わらず愛され続ける施設として日々研鑽を続けていく所存である。

②地域内の取り組み姿勢の維持

大変ありがたいことに、施設自体の認知の広がりに伴って新規のお客様が継続的に訪れてくださっている。特にランチはその実感が強く、決して利便性が高い訳ではない立地ながら、遠方からのお客様にもお越しいただいている。また今年度事業として展開した「弟子入りプログラム」など、体験コンテンツに関してもかなり高い満足度を得られることを確認している。お客様のニーズに応えながら、同時に地域内での盛り上がりを生み出していけるよう、機運を高めていきたい。

③ファン獲得に向けたリピーター対策

上記の通り飲食面での反響が大きい中、いつまでも新規のお客様がいらっしゃると慢心せず、その中からのリピーターの確保に努める。シーズンごとに旬の食材を活用するなど、スロウプハウスらしい仕掛けを継続していくことにより、長く愛してもらえるファンを獲得していく。

事業実施主体名:城端地区活性化協議会

令和 6年 11月 7日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 南砺市	令和4	農泊推進事業、人材活用事業	市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

事業の実施体制としては、地域との連携も含めて概ね構築できている。
また、国の交付金の活用により宿泊施設の善徳寺・杜人舎も完成した。善徳寺は、民藝思想の創始者の柳宗悦が思想の集大成『美の法門』を書き上げた“民藝の聖地”であり、地域の農業や食・文化とその背景にある仏教や民藝思想を学ぶ多様な講座・体験コンテンツの磨き上げが行われた。

2. 低調と評価された要因

宿泊施設の運営人材の採用に苦戦し、本格開業が3月中旬まで大幅に遅れたことで稼働期間が実質半月と短くなり、売上及び宿泊者数については目標を達成することができなかったことから、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①顧客層からのリピート化及び PR 方法を検討

インバウンド需要やインフルエンサーによる影響など、既にコアな顧客層を獲得していることからリピート化出来るのではないか。深堀し、PR 方法を検討することで、顧客の開拓に繋がるのではないか。

②人材不足時代を見据えた対応

宿泊施設の担当者採用が難航して本格開業が大幅に遅れたことは残念。見通しの甘さによる機会損失を真摯に反省し、人材不足時代を見据え、今後に生かしてもらいたい。

③強みを活かしたインバウンド需要の取り込み

善徳寺を核に、民藝思想やむぎや祭り、民謡、曳山祭、散居村など、地域資源は充実しており、干し柿や報恩講料理、なれずしなど農産品も多彩だ。情報発信に積極的に取り組んでおり、日本の田舎暮らしの体験を求めるインバウンド需要が見込まれる。外国人が興味を持つ講座・体験コンテンツの幅を広げ、取り込みを行ってみてはどうか。

4. 改善状況

①顧客層からのリピート化及び PR 方法を検討

PRについては、インバウンドも意識し、善徳寺 杜人舎のInstagramアカウントにて、宿泊施設はもちろん、周辺での体験などを積極的に投稿をし、順調にフォロワー数を増やしてきた(2025年3月末時点で約1800フォロワー)。また、海外OTAでのPR・キャンペーン参加を積極的行ったきた。その結果特にBooking.comでインバウンド中心に口コミが順調に高まり、レビュースコアも9.5/10を超えており、継続的に予約が入ってくる状況を作ることができた。

②人材不足時代を見据えた対応

善徳寺・杜人舎については、予想よりも稼働率が高まったため、昨年度は人員の採用が一部間に合っていない状況だった。その後数社の求人サイトを通じて人材の募集を行った結果、地域内外から多くの応募があり、多様なバックグラウンドを持つ応募者が集まり運営体制が安定してきた。

③強みを活かしたインバウンド需要の取り込み

①のPRへの注力及びインバウンドも興味を持つ民藝思想（善徳寺のお朝事にはほぼ100%のインバウンド顧客が参加する現状）やお祭りの体験コンテンツの造成により、令和6年度の善徳寺 杜人舎の宿泊に関しては、インバウンド比率が32%と高いインバウンド比率となっている。

事業実施主体名:魚津市農泊推進協議会

令和 6年 10月 16日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 魚津市	令和5	農泊推進事業	

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

ファミリーワーケーションの取組については、cocomama が構成員として加わり、地域の保育園や児童センターと連絡調整を図り、予定どおり行ったが、食のメニュー開発については、協議会内で早期の打合せを行って受入体制を整えていた。

2. 低調と評価された要因

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で地域に大きな被害があり、漁港や漁業者の被害対応や機能回復を優先したこと等のため新たな食のメニューの開発・販売に至らなかった。
また、宿泊の予約キャンセルも多く発生し、新たに開発した体験プログラムの利用人数も少数にとどまったことから、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①キャンセル客からの誘客

キャンセル客が多かったということは、裏を返せば予約者が多かった、もしくは発信した情報が届いていたことが示される。キャンセル客との連絡が取ることがあれば、ピンポイントで誘客してみてもどうか。

②さらなる魅力的な海鮮メニューの開発

魚津寒ハギのブランド化や魚津バイ飯などの個性的なメニューづくりに取り組むなど、熱意と創意工夫があるのはよく分かる。cocomama の発信・集客力を活用するのはもとより、さらに魅力的な海鮮メニューの開発に取り組んでみてはどうか。

③復興支援団体との連携

震災被害にかかる復興支援活動団体などと連携し、事業再開後の支援（誘客）にも協力を依頼する働きかけをしてみてもどうか

4. 改善状況

①キャンセル客からの誘客

地震や台風及び大雪等の寒波により災害級の被害及びその後の混乱が予想される場合は、幼い子供を伴う旅行は、誰しも避けるのは仕方ありません。このため、時期の変更を促すことが集客につながると判断されます。実際に令和7年1月以降の寒波で大雪による交通機関が乱れたことを原因とするキャンセルが発生した際は夏季の時に変更をお願いをしました。また、地震の際にキャンセルされた方にもcocomamaを通じて再訪を促しました。相手側の仕事の都合もあり簡単ではありませんが、当地の夏季時の魅力を伝え、理解を得るに至りました。今後はキャンセル理由をしっかりと確認し、再度の訪問につながるよう努力していく方針であります。

②さらなる魅力的な海鮮メニューの開発

富山県を訪れる人の関心は、美味しい魚を食べることが上位にあることは周知の如くであり、幸いにも目の前が海であることを活かすことは最重要課題と再認識し、高鮮度、高品質だけでなく家族や仲間が簡単に食することができるような形態も含め、魅力と感じてもらえる海産物を使ったメニューの提供を目指していきたいと思います。今回は、魚津産の野菜と魚を組み合わせた「魚すき」を考案、その魚に魚津ならではの深海魚を使用するなど工夫しましたが、ブランド化した商品の提供を含め、単にソフト面の利便性だけを発信するだけでなく、食の魅力を同時に伝えることとし、集客力のアップを図っていききたいと思います。

③復興支援団体との連携

支援団体への食材支援等は行いましたが、まだまだ復興が進んでいない状況からして協力を依頼することは難しいと判断いたしました。今後は状況をみながら誘客に向けて働きかけをしたいと思います。

事業実施主体名: いっぱいぽ株式会社

令和 6年11月 1日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 上市町	令和5	農福連携支援事業 整備事業	農福連携の取組

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

能登半島地震の影響で工期内に施設の竣工ができなかった点は理解できる、事業実施体制が整っているようなので、遅れている職場・作業環境を整え、着実に事業を進めてほしい。

2. 低調と評価された要因

主要な取り組みである水耕栽培設備の整備が、設計のやり直し、能登半島地震の影響等で年度内に完成できなかった。このため、水耕栽培に関連した障害者等の雇用・就労人数、売上げ、交流人数が目標を下回る事となったため低調と評価とする。

3. 目標達成に向けた方策

<障害者等の雇用・就労>

作成した障害者向けの作業マニュアルを見直して、作業の効率化を図る。

<販路の確保>

地域の直売所、スーパーマーケットに野菜を卸すほか、ふるさと納税に参加する。

<地域との連携>

地域のマルシェに参加するほか併設のカフェ、直売所で地域の交流を図る。

4. 改善状況

特別支援学校など情報交換や就業体験を行い利用者（障害者等）の就労、雇用に至っている。

販路の確保については、地域のJA直売所等に加え、スーパーマーケットと取引を行い、少しずつ販路の拡大している。

また、併設するカフェ、直売所で野菜を販売することで、地域の交流に勤めている。